

暑い夏が来た!

熱中症予防対策は万全に
熱中症ゼロを目指して

 建設業労働災害防止協会 大分県支部

独立行政法人 労働者健康福祉機構

 大分産業保健推進センター

1 熱中症とは

1 熱射病



- 熱中症の中では致命率が高く、緊急の治療を要する。
- 突然意識障害に陥ることが多い。
- 発病前にめまい、悪心、頭痛、耳鳴り、イライラなどが見られ、嘔吐や下痢を伴う場合がある。
- 体温調節機構の失調、体温の上昇を伴う中枢神経障害が原因と考えられている。

2 熱けいれん



- 四肢や腹部に筋肉の痛みを伴い、発作的にけいれんを起こす。
- 作業終了後の入浴中や睡眠中に起こる場合もある。
- 大量の発汗による塩分喪失に対し、塩分を補給しなかったことにより起こる。

3 熱虚脱



- 全身倦怠、脱力感、めまいがみられる。
- 意識混濁し、倒れることもある。
- 高温暴露が継続し、心拍数の増加が一定限度を超えた場合に起こる。

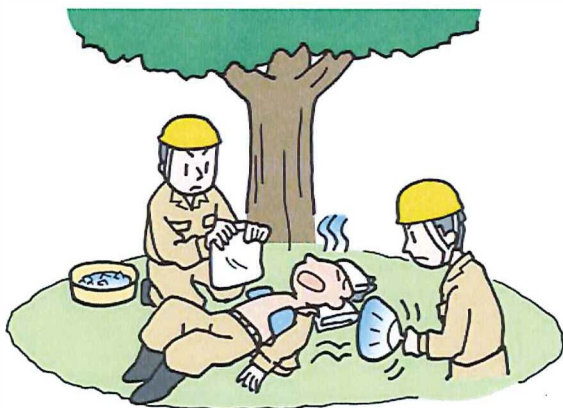
4 熱痲はい



- 初期には激しい口渇、尿量の減少がみられる。
- めまい、四肢の感覚異常、歩行困難などがみられるようになり、失神することもある。
- 大量の発汗で血液が濃縮することによる心臓の負担増大や血流分布の異常により起こる。

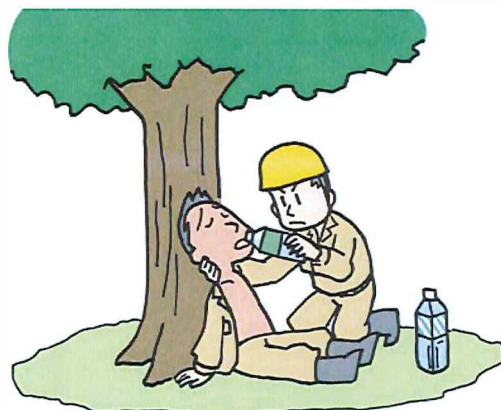
2 救急措置

1 熱射病



- 裸に近い状態にし、冷水をかけながら扇風機等による風をあてる。
- 氷片でマッサージするなど、体温の低下をはかる。

2 熱けいれん・熱虚脱・熱痲はい

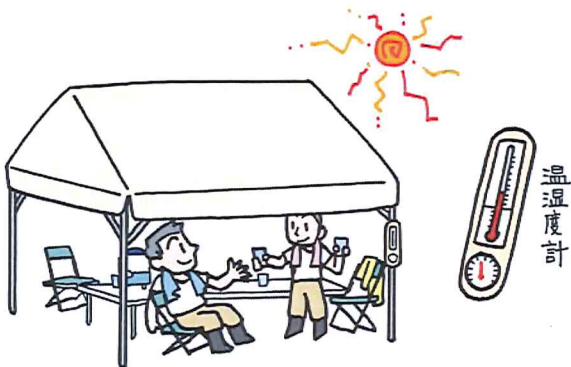


- 涼しいところで安静にして、水やスポーツドリンクなどをとらせる。

- 救急車の手配をして医師の診察を受ける。
- 救急車が到着するまで救急措置を取る。

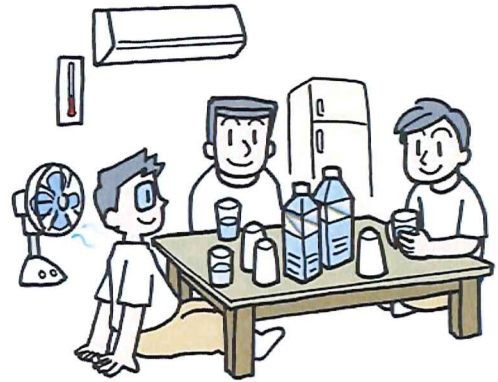
3 熱中症を防ぐには

1 日よけで直射日光をさえぎる。



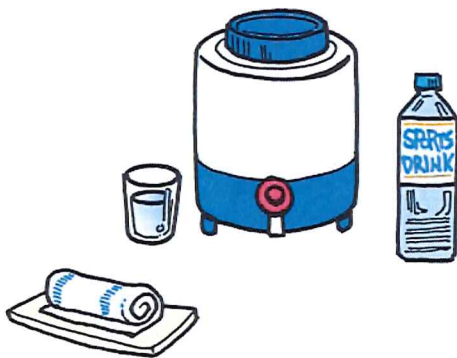
- 作業中の温度・湿度がわかるよう温度計、湿度計を設置する。

2 風通しのよい休憩場所を設け、休憩させる。



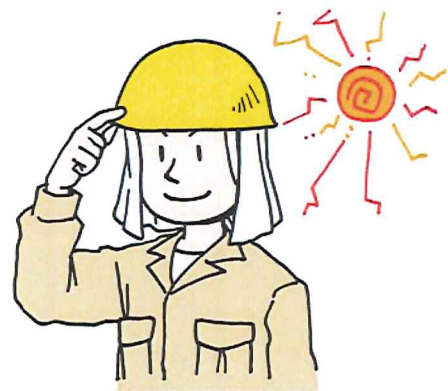
- 日陰の涼しい場所に休憩場所を設け、休憩させる。
- 扇風機、クーラーを置く。

3 積極的に水分・塩分を補給する。



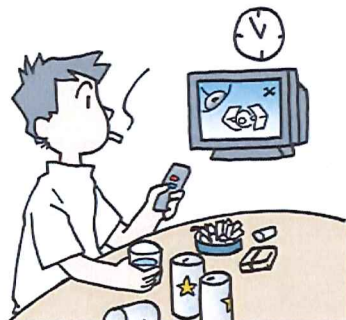
- 0.1%の食塩水やスポーツドリンクを置く。
- 身体を冷やすことのできるシャワー等設ける。
- 氷や冷たいおしぼり等備える。

4 通気性の良い、つば広の帽子を着用する。



- 吸湿性、通気性の良い服装をする。
- 首と頭を直射日光から守る。

5 健康管理を行う。



- 作業者に睡眠時間、食事など日常の健康管理について指導する。(前日の飲酒や夜更かしをしない。当日は、必ず朝食を取るなど)
- 作業開始前に健康状態を確認し、作業中は頻回にパトロールを行い、声をかける。

6 労働衛生教育を行う。

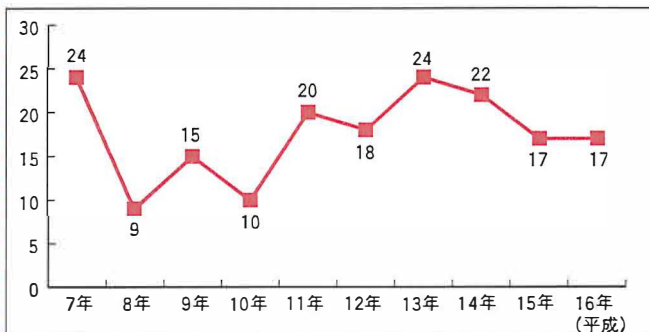


- 熱中症の症状が出ているのに、悪化するまで、本人や周囲が気づかない場合も多い。作業管理者、作業者に次のような教育が必要である。
①熱中症の症状 ②予防方法 ③救急措置 ④災害発生事例

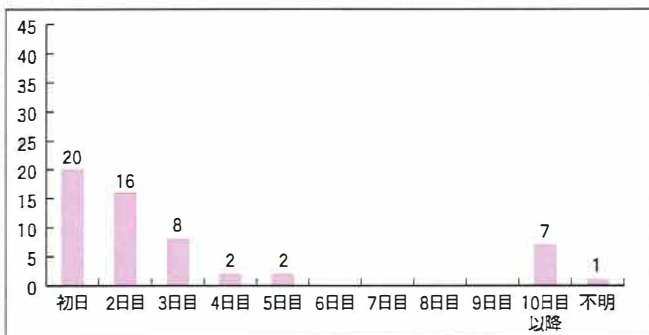
4 災害事例

1 熱中症による死亡災害発生状況

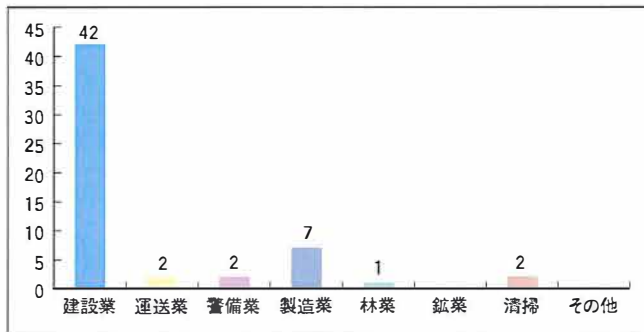
熱中症による死亡災害発生件数の推移（平成7年～16年分）



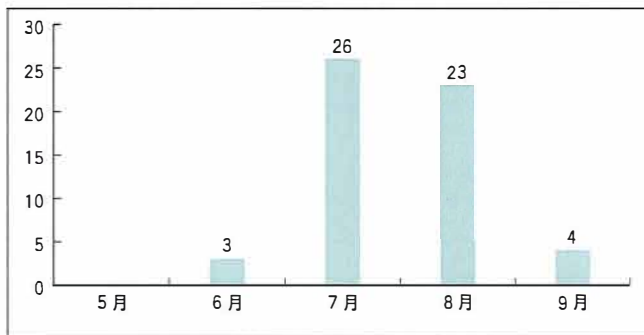
作業日数別被災状況（平成14年～16年分）



業種別被災状況（平成14年～16年分）



月別被災状況（平成14年～16年分）



2 熱中症による死亡災害発生事例（平成16年）

建設業 気温30℃ 湿度60% 40才代

工場新築工事現場で午前8時頃から屋根の部材の段取り作業等に従事した。午後2時20分の休憩中に被災者が体調不良を訴えた。午後3時30分頃、意識不明になり病院に搬送されたが、まもなく死亡。

建設業 気温33℃ 湿度58% 30才代

木造建築工事現場において、午前8時10分頃から、たる木等の取付け作業に従事していた。午後5時頃、真っ直ぐに歩行できない等の症状が現れたため、病院へ搬送したが、翌日死亡した。

建設業 気温34℃ 湿度49% 20才代

ビル新築工事現場において、午前8時15分頃から、鉄筋圧接作業等に従事していた。午後3時15分頃、意識が朦朧とした状態の被災者が発見され、救急車で病院へ搬送されたが、まもなく死亡。

建設業 気温30℃ 湿度42% 50才代

道路舗装工事現場において、午前8時15分頃から、ガードレールの設置作業等に従事していた。午前11時40分頃、体調不良を訴え、日陰で休憩を取っていたが、意識不明となり、病院へ搬送されるも、まもなく死亡。

製造業 気温34℃ 湿度54% 40才代

屋外の製品置場において、午後8時30分頃から、製品の検査業務等に従事していた。午後4時頃、体調不良を訴え、休憩室等で休憩していたが、異常行動を取るようになったため、病院へ搬送するも翌日死亡。

製造業 室内気温37℃ 室内湿度47% 50才代

発泡樹脂製造工場において、午前5時20分頃から、製品の運搬作業に従事していた。勤務終了後、休憩していた本人に声を掛けるも返答がなかったため、救急車で病院へ搬送されたがまもなく死亡した。

警備業 気温28℃ 湿度72% 50才代

イベント会場の駐車場において、午前8時頃から、車の誘導業務に従事していた。午前11時10分頃から、足がふらつき真っ直ぐに歩行できなくなった。翌々日から病院で受診していたが、9日目に死亡した。

